

《参考6》 入力することをおすすめするメタデータ項目の説明

番号	項目名	値の内容	入力条件	値の形式	解説・入力例等	NDLメタ対応項目※1	連携メタ対応項目
1	タイトル	コンテンツに与えられる名称	必須	文字列	<p><解説></p> <ul style="list-style-type: none"> タイトルは、アーカイブの検索結果一覧画面やコンテンツの閲覧画面で通常最も目立つ位置に表示されるため、タイトルを確実に付けることが、アーカイブの使いやすさやコンテンツの流通性の向上につながります。 書籍や記事のように、既にタイトルがあるコンテンツの場合は、そのタイトルを入力します。 写真のようにタイトルが無いコンテンツの場合は、できるだけ事実に基づき、5W1Hのうち明らかな情報をタイトルとして入力します。撮影時刻、撮影場所、撮影対象となっている事物の情報について、なるべく具体的に入力しましょう。 <p><入力対象となる資料種別></p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての資料種別 <p><入力例></p> <ul style="list-style-type: none"> 写真のタイトルの例 [タイトル] 2011年4月28日 15時34分 宮城県石巻市立○○中学校体育館に設けられた避難所での食事の様子 	2-4、2-5、2-6 →タイトル	R-11、 R-105、 R-12
2	識別子	情報を一意に識別するためのIDや番号	必須	文字列 あるいは URI 92形	<p><解説></p> <ul style="list-style-type: none"> 識別子は、コンテンツをWeb上で引用する場合やメタデータを第三者が利用する場合等に重要な情報です。メタデータとコンテンツにはそれぞれ別個の識別子を振り、アーカイブシステム上で分けて管理で 	1-3、1-4 →メタデータの詳細画面 URI 2-1、2-2 →情報資源	R-03 R-10

⁹² Uniform Resource Identifier の略。Web上で情報を識別するための方式。通常よく使われているURL (Uniform Resource Locator) は、URIの一種であると捉えられることが多い。

※1 NDL 大震災メタデータスキーマの対応項目

番号	項目名	値の内容	入力条件	値の形式	解説・入力例等	NDL メタ対応項目※1	連携メタ対応項目
				式	<p>きるようにします。これを行わないと、例えば「作成日」という項目があった場合に「メタデータの作成日」なのか「コンテンツそのものの作成日」なのか区別できなくなってしまう、データの流通や利活用に支障をきたす恐れがあります。</p> <p><入力の際の留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> 機械可読性を高めるため半角アルファベットや数字を用い、原則としてシステム側で機械的に付与します。 識別子を Web 上で提供する際は、流通性を高めるため http://から始まる URI の形式で提供します。 付与した識別子を基に「コンテンツ閲覧画面の URL」、「コンテンツのファイルの URL」、「コンテンツのサムネイル画像 URL」を生成し、アーカイブシステムの画面 URL に採用すると一貫性が取れます。また、これらの URL をメタデータとして提供すると、メタデータの利用者がこれらのデータを活用し、新たなアーカイブを構築することも可能になります。 <p><入力対象となる資料種別></p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての資料種別 <p><入力例></p> <p>NDL 大震災アーカイブで付与した識別子の例</p> <ul style="list-style-type: none"> メタデータの識別子： http://kn.ndl.go.jp/138f61e6-3055-4b84-baae-fc0d7be90332 コンテンツの識別子： http://kn.ndl.go.jp/138f61e6-3055-4b84-baae-fc0d7be90332#entity 	<p>そのもの(実体)の URI 2-115 →レコード番号</p> <p>2-156 →情報資源の閲覧画面へのリンク</p> <p>2-160 →情報資源のファイルへのリンク</p> <p>2-249 →情報資源のサムネイル画像</p>	<p>R-54</p> <p>R-103</p> <p>R-104</p> <p>R-93</p>
3	権利情	コンテン	任意	文字	<解説>	2-235	R-85

※1 NDL 大震災メタデータスキーマの対応項目

番号	項目名	値の内容	入力条件	値の形式	解説・入力例等	NDLメタ対応項目※1	連携メタ対応項目
	報・利用条件	ツに関する権利や利用条件		列 ある いは URI 形式	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツに付随する権利情報や、どのような条件で利用できるのかをアーカイブの利用者に示すことで、アーカイブの利用者は安心してコンテンツを利用することができます。 <p><入力の際の留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> クリエイティブ・コモンズ・ライセンスのような、標準的な権利・利用条件の体系に基づいて入力すると、標準的な記述となるため機械的に処理しやすく、権利・利用条件による絞り込み検索等のサービスも実現しやすくなります。 ただし、本ガイドライン「第6章 震災関連 デジタルアーカイブの権利関係について」で述べるように、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスのような標準的な体系では処理できないことも想定されます。その場合は、権利・利用条件の注記として、権利や許諾の条件をわかりやすく文字列で入力しておく、利用者がコンテンツを利用しようとする際に役に立つでしょう。 権利情報・利用条件を標準的な体系で記述できない場合でも「そのコンテンツがWeb上で誰もが閲覧可能なのか否か」、「そのコンテンツが有償利用なのか無償利用なのか」、「そのコンテンツに誰でもアクセス可能なのか特定の利用者しかアクセスできないのか」といった情報は、できるだけ表現をルール化しておきましょう。ルール化することで、コンテンツの絞り込み検索等の機能を提供することができます。 <p><入力対象となる資料種別></p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての資料種別 	<p>→情報資源に関するアクセス制限 2-236、2-237、2-238 →ライセンス情報 2-242、2-243、2-244 →権利・利用条件に関する注記</p>	R-109 R-92、R-106、R-107

※1 NDL 大震災メタデータスキーマの対応項目

番号	項目名	値の内容	入力条件	値の形式	解説・入力例等	NDL メタ対応項目※1	連携メタ対応項目
					<p><入力例></p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツの利用条件がクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの CC-BY-SA の場合 http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/ 権利・利用条件の注記の例 1 〇〇県職員のみ二次加工による利用可 権利・利用条件の注記の例 2 復興支援や学術研究を目的としている場合に限り、営利事業であっても二次加工・利用を許可する。 		
4	撮影者、作成者（著作権者）	コンテンツの作成に主たる責任を持つ人、組織、サービスなど	任意	文字列 あるいは URI 形式	<p><解説></p> <ul style="list-style-type: none"> 写真や動画の撮影者、文書の作成者、本の著者などを入力します。それにより、コンテンツを作成した個人名や団体名から検索できる機能を提供することができます。 個人や団体名だけでなく連絡先もメタデータとして入力しておく、後に権利関係の処理が改めて必要になった際に著作権者が容易に特定できます。ただし、個人情報や外部と接続するアーカイブに入力することがセキュリティ・ポリシー等で禁止されている場合もありますので、メタデータは撮影者、作成者が特定できるニックネーム等とし、個人名や連絡先は、別管理とする方法もあります。 <p><入力の際の留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> 文字列で記述することが基本ですが、文字列で記述した場合、メタデータの入力作業によって作成者名の記述にブレが生じる恐れもあります。国立国会図書館が提供している Web NDL Authorities（国立国 	→2-47、2-48、2-49、2-50 →作成者 (URI) →作成者	R-96、R-97、R-93、R-50

※1 NDL 大震災メタデータスキーマの対応項目

番号	項目名	値の内容	入力条件	値の形式	解説・入力例等	NDLメタ対応項目※1	連携メタ対応項目
					<p>会図書館典拠データ検索・提供サービス)は、個人や団体に対して一意に識別することのできる URI を付与し、その名称や生年等の情報を維持管理しています。可能であれば、Web NDL Authorities を検索し、該当する個人や団体のデータが存在している場合には、個人や団体の名称を文字列で入力することと併せて、Web NDL Authorities の URI もメタデータとして記述しておく、名称のブレを避けることができ、データの処理や流通、利活用がよりしやすくなるでしょう。</p> <p><入力対象となる資料種別></p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての資料種別 <p><入力例></p> <ul style="list-style-type: none"> 作成者が宮城県庁の場合の入力例 [作成者 (URI)] http://id.ndl.go.jp/auth/entity/00260738 [作成者]宮城県 		
5	公開者・出版者	コンテンツを公開し、利用可能とすることに責任をもつ人、組織、サービスなど	任意	文字列 あるいは URI形式	<p><解説></p> <ul style="list-style-type: none"> 例えば投稿サイトに掲載された写真や新聞記事のように撮影者や作成者以外の第三者がコンテンツを公開したり出版したりしている場合は、公開者・出版社等も併せて入力しておくようにしましょう。コンテンツを公開した個人名や団体名から検索できる機能を提供することができます。 <p><入力の際の留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> 項番4 撮影者・作成者と同様です。 <p><入力対象となる資料種別></p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての資料種別 	2-61、2-62、2-63、2-64 →出版者・公開者 (URI) →出版者・公開者	
6	提供者	コンテンツの提供	任意	文字列	<p><解説></p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツの撮影者・作成者以外の第三者 	2-54、2-55、2-56、2-57	R-21、R-22、

※1 NDL 大震災メタデータスキーマの対応項目

番号	項目名	値の内容	入力条件	値の形式	解説・入力例等	NDLメタ対応項目※1	連携メタ対応項目
		者・寄贈者		あるいはURI形式	<p>からコンテンツの提供を受けた場合は、提供者の情報も、コンテンツの来歴を把握するうえで重要な情報です。</p> <p><入力の際の留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> 項番4 撮影者・作成者と同様です。 <p><入力対象となる資料種別></p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての資料種別 	→ 寄与者 (URI) → 寄与者	R-23
7	撮影日、作成日	コンテンツの作成日（写真の撮影日時等）	任意	文字列	<p><解説></p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツがいつ作成されたものかを表す情報をメタデータに記述しておくことで、いつ何が起きたのかを振り返る際の重要な手掛かりとなります。特に写真や動画の撮影日時の情報は、いつの時点での状況かを示す非常に重要な情報です。 日付情報があると、タイムライン検索の機能を提供することができます。 <p><入力の際の留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> 作成日は、標準的な記述形式であるW3CDTF形式で入力するようにしましょう。この形式に統一してデータを入力することでデータを機械的に処理しやすくなり、例えば時系列インタフェースで可視化して表示する等も可能になります。 デジタルカメラ等で撮影された写真や動画の場合、ファイルのプロパティ情報として撮影日時の情報が自動的に付加されることがほとんどです。アーカイブシステムにコンテンツを登録する際に、ファイルのプロパティに含まれる撮影日時の情報を、アーカイブシステム側に機械的に付与できる仕組みを用意することをおすすめします。 <p><入力対象となる資料種別></p>	2-85、2-86 → 作成日	R-43

※1 NDL 大震災メタデータスキーマの対応項目

番号	項目名	値の内容	入力条件	値の形式	解説・入力例等	NDLメタ対応項目※1	連携メタ対応項目
					<ul style="list-style-type: none"> 写真、音声、動画 <p><入力例></p> <ul style="list-style-type: none"> 2011年3月17日に撮影された写真の撮影日をW3CDTF形式で記述 2011-03-17 ※YYYY-MM-DDの形式で入力します。 ※11/03/17等、日付をスラッシュで区切る表現は、地域によって意味合いが異なるため、必ずW3CDTF形式で入力するようにしましょう。 <p><参考資料></p> <ul style="list-style-type: none"> W3CDTF形式 W3C http://www.w3.org/TR/NOTE-datetime 日付の表記に関するノート kanzaki.com http://www.kanzaki.com/docs/html/dtf.html 		
8	掲載日・公開日	コンテンツの出版日・公開日	任意	文字列	<p><解説></p> <ul style="list-style-type: none"> 雑誌記事や書籍、被災地で配られたかわら版のような文書資料の場合、作成日ではなく掲載日や公開日が重要な情報となります。 <p><入力の際の留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> 作成日と同様、標準的な記述形式であるW3CDTF形式で記述するようにしましょう。そうすることでデータを機械的に処理しやすくなり、例えば時系列インタフェースで可視化して表示する等も可能になります。 <p><入力対象となる資料種別></p> <ul style="list-style-type: none"> 文書、Webサイト 	2-95、2-96 →公開日・出版日	R-44
9	撮影場所、作成場所(地)	コンテンツの場所情報を住	任意	文字列 ある	<p><解説></p> <ul style="list-style-type: none"> そのコンテンツがどこで作成されたのか／あるいはどこの場所について表現した 	2-171、 →対象の場所（都道府	R-62

※1 NDL 大震災メタデータスキーマの対応項目

番号	項目名	値の内容	入力条件	値の形式	解説・入力例等	NDLメタ対応項目※1	連携メタ対応項目
	名)	所で表したものの (例：宮城県仙台市等)。		いはURI	<p>コンテンツなのかといった情報を入力することで、検索の際に有効な検索キーとなります。</p> <p><u><入力の際の留意点></u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「そのコンテンツがどこで作成されたのか」(例：写真の撮影場所)と「どこの場所について表現したコンテンツなのか」(例：撮影対象物がある場所)は別の情報であるため、両者はメタデータ上で分けて入力します。 都道府県名や市町村名を記述する場合、記述にぶれが生じないように、全国地方公共団体コードのようなルール化されたコードを使うことをおすすめします。ルール化された形式で都道府県名や市町村名を入力しておけば、例えば日本地図からエリアを選択して絞り込むようなユーザインタフェースを実現することも可能になります。 文字列で直接都道府県名や市町村名を記述する際は、必ず「〇〇県」、「〇〇市」等、「県」「市」まで入力するようにしましょう。「県」や「市」まで入力しないと、例えば「福島県」と「福島市」を区別できなくなってしまう、後の利用に支障をきたす恐れがあります。また、震災関連デジタルアーカイブでは、地元で呼び習わされている地区名や旧地名などのほうが、検索キーとして重要になることも考えられます。 郡名がある場合は、市町村名の前に郡名を入力しましょう。 政令市の場合は、市町村名の後ろに区名を入力しましょう。 <p><u><入力対象となる資料種別></u></p>	<p>県)</p> <p>2-172 →対象の場所(市町村)</p> <p>2-186、 →撮影場所(都道府県)</p> <p>2-187 →撮影場所(市町村)</p>	<p>R-63</p> <p>R-76</p> <p>R-77</p>

※1 NDL 大震災メタデータスキーマの対応項目

番号	項目名	値の内容	入力条件	値の形式	解説・入力例等	NDLメタ対応項目※1	連携メタ対応項目
					<ul style="list-style-type: none"> 全ての資料種別が対象となり得るが、特に写真、動画 <p><入力例></p> <ul style="list-style-type: none"> 岩手県野田村の場合 [対象の場所（都道府県）] 岩手県 [対象の場所（市町村）] 九戸郡野田村 宮城県仙台市の場合 [対象の場所（都道府県）] 宮城県 [対象の場所（市町村）] 仙台市若林区 		
10	場所情報（緯度経度）		任意	文字列	<p><解説></p> <ul style="list-style-type: none"> 緯度経度情報は、都道府県や市町村といった場所を範囲で表す情報と異なり、ある具体的な地点を特定して指すことができるため、コンテンツの撮影場所等を地図上で特定することができます。 ただし、緯度経度情報は具体的な場所を特定できてしまうため、情報セキュリティや個人情報保護の観点を考慮する必要があります。例えば、ある個人が自宅で撮影した写真に緯度経度情報が付加されていると、その個人の住宅の場所を特定できてしまいます。場所が特定されてしまうことによるデメリットやリスクが大きい場合は、撮影場所の最も近くの公民館や役所等、公的な施設の緯度経度情報に差し替える等の対応が求められます。情報を差し替えた場合は、緯度経度情報を差し替えた理由や経緯について注記等に入力しておきましょう。 <p><入力の際の留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> 緯度経度情報は、標準的な記述形式である世界測地系にしたがって記述しておくこと、地図サービス上にコンテンツをマップし 	<p>2-176、 →対象の場所（緯度）</p> <p>2-177 →対象の場所（経度）</p> <p>2-183、 →撮影場所（緯度）</p> <p>2-184 →撮影場所（経度）</p>	<p>R-65</p> <p>R-66</p> <p>R-73</p> <p>R-74</p>

※1 NDL 大震災メタデータスキーマの対応項目

番号	項目名	値の内容	入力条件	値の形式	解説・入力例等	NDL メタ対応項目※1	連携メタ対応項目
					<p>て可視化する等、コンテンツの活用範囲が広がります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 緯度経度情報を人手で入力すると入力ミスが起こる可能性が高いため、なるべく機械的に付与します。 写真や動画を撮影するデジタルカメラ等には、撮影場所の緯度経度情報や撮影した方角等を自動的にファイルのプロパティ情報として記録できる製品もあります。アーカイブシステムに、コンテンツを登録する際にファイルのプロパティ情報からこれらの情報を抽出し自動的に付与できる仕組みを実装したり、外部サービスを活用して事前に緯度経度情報を付与した後にアーカイブシステムに登録したりする等の対応をとることをおすすめします。 <p><入力対象となる資料種別></p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての資料種別が対象となり得るが、特に写真、動画 <p><入力例></p> <ul style="list-style-type: none"> 撮影場所が宮城県仙台市役所の場合 [撮影場所（緯度）] 38.268211 [撮影場所（経度）] 140.869385 <p><参考情報></p> <ul style="list-style-type: none"> 世界測地系移行の概要 国土地理院 http://www.gsi.go.jp/LAW/G2000-g2000.htm 世界測地系と日本測地系 kanzaki.com http://www.kanzaki.com/docs/sw/geoinfo.html#datum Google Picasa を使用すると、緯度経度情報や住所情報をより効率的に付与することができます。 		

※1 NDL 大震災メタデータスキーマの対応項目

番号	項目名	値の内容	入力条件	値の形式	解説・入力例等	NDL メタ対応項目※1	連携メタ対応項目
					http://picasa.google.com/ <ul style="list-style-type: none"> ヤフー株式会社が提供するジオコード API やリバーズジオコード API を利用すると、前者では住所情報から緯度経度情報を、後者では緯度経度情報から住所情報をそれぞれ得ることができます。NDL 大震災アーカイブではこの二つの API を利用し場所情報を付与しています。 http://developer.yahoo.co.jp/webapi/map/openlocalplatform/v1/geocoder.html http://developer.yahoo.co.jp/webapi/map/openlocalplatform/v1/reversegeocoder.html		
11	キーワード、内容	コンテンツの内容を表すキーワード	任意	文字列 あるいは URI 形式	<u><解説></u> <ul style="list-style-type: none"> そのコンテンツがどのようなテーマ、主題を持っているのかという情報を入力しておくことで、そのコンテンツについて知るための手がかりとなります。 キーワードを使って、検索結果の表示画面に関連するコンテンツを提供することも可能となります。 <u><入力の際の留意点></u> <ul style="list-style-type: none"> 主題を入力する際は、文書資料であればタイトルや要約、本文等から主題を把握し入力することができます。 写真や音声・動画の場合は、「被写体は何なのか」等をふまえ、できるだけ事実情報を入力するようにし、できるだけ入力者の主観を排除するよう心がけましょう。 場所に関する情報は、住所や緯度経度であれば「対象の場所（住所）」や「対象の場所（緯度経度）」に入力します。 可能であればルール化された分類項目や 	2-70、2-71、2-72、2-73 → 主題 (URI) →主題	R-32、R-33、R-34

※1 NDL 大震災メタデータスキーマの対応項目

番号	項目名	値の内容	入力条件	値の形式	解説・入力例等	NDL メタ対応項目※1	連携メタ対応項目
					<p>語彙を入力することおすすめします。構築するアーカイブの想定利用者やサービスイメージ、提供するコンテンツの特性等に基づき、分類や語彙をあらかじめ検討し、ルール化しておくことも考えられます。例えば写真コンテンツが中心で「東日本大震災発災前と後を見比べられるようにしたい」のであれば「震災前」、「震災後」といった語彙をルール化しておくことも考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ルール化していない形式で入力する場合でも、例えば以前入力したキーワードが入力作業の際に推奨表示されるなど、入力者による表記ゆれを防止するような仕組みや、自然に表記が統制されていくような仕組みを、システムあるいは業務運用で設けることも考えられます。 • キーワードは複数入力することが考えられますが、データを処理しやすいよう、一つのフィールドに複数入力するのではなく、一つのフィールドにはキーワードを一つ入力し、それを複数回繰り返すことにより入力しましょう。 <p><参考情報></p> <ul style="list-style-type: none"> • 統制的な語彙としては、国立国会図書館が提供している Web NDL Authorities (国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス) の普通件名がありますので、Web NDL Authorities を検索し、普通件名を URI 形式で記述しておくこと、統制的な形式で主題情報を管理できるため、データの処理や流通、利活用がよりしやすくなるでしょう。 <p><入力対象となる資料種別></p>		

※1 NDL 大震災メタデータスキーマの対応項目

番号	項目名	値の内容	入力条件	値の形式	解説・入力例等	NDLメタ対応項目※1	連携メタ対応項目
					<ul style="list-style-type: none"> 全ての資料種別 <入力例> <ul style="list-style-type: none"> 主題タグの入力例 [主題] 建物 [主題] 浸水 Web NDL Authorities の入力例 [主題 (URI)] http://id.ndl.go.jp/auth/ndlsh/01226692 [主題] 東日本大震災 (2011) 		
12	資料種別	コンテンツの種別 (動画、写真、音声等)	必須	文字列 あるいは URI形式	<解説> <ul style="list-style-type: none"> 「そのコンテンツが動画なのか音声なのか、あるいは文書なのか」といった情報をメタデータに記述しておく、アーカイブの利用者が情報を探す際の重要な手掛かりになります。例えば、防災の授業を受け持つ教師がアーカイブを利用する場合、漠然と利用するのではなく「教材に貼りこめる写真に良いものはないか」「授業の冒頭で津波がいかにも恐ろしいか一目でわかるような動画を流したいが、ふさわしい動画があるか」といった視点で探す可能性があります。こういった場合に、検索結果を資料種別で絞り込めるようになっていると大変有用でしょう。 <入力の際の留意点> <ul style="list-style-type: none"> 資料種別には様々な粒度がありますが、少なくとも「文書資料」、「写真」、「音声・動画」、「ウェブサイト」、「その他」という五つの種別では分類できるよう、資料種別の情報をメタデータとして入力することをおすすめします。構築するアーカイブの特性に応じて「記事」、「図書」、「オーラルヒストリー」等、細分化して入力してもいい 	2-111、2-112、2-113 →資料種別 (URI) →資料種別	R-52

※1 NDL 大震災メタデータスキーマの対応項目

番号	項目名	値の内容	入力条件	値の形式	解説・入力例等	NDL メタ対応項目※1	連携メタ対応項目
					<p>でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> できるだけルール化された値で資料種別を記述しましょう。 <p><参考情報></p> <ul style="list-style-type: none"> ルール化された値として、国立国会図書館が定める「NDL タイプ語彙」があります。以下の URL で、NDL 東日本大震災アーカイブが採用する NDL タイプ語彙の一覧と付与指針を見ることができます。 <p>◆URL 調整中◆</p> <p><入力対象となる資料種別></p> <ul style="list-style-type: none"> (コンテンツがデジタル資料の場合) 全ての資料種別 <p><入力例></p> <ul style="list-style-type: none"> 統制された文字列で入力する場合 [資料種別] 写真 NDL 大震災アーカイブで、資料種別が「動画」の場合 [資料種別 (URI)] http://purl.org/dc/dcmitype/MovingImage [資料種別] 映像資料 		
13	ファイル形式	コンテンツフォーマット (ファイル形式) の名称やバージョン (例: 画像ファイルなら JPEG、文	任意	文字列あるいは参照値	<p><解説></p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツのフォーマット名称をメタデータとして入力します。 デジタルデータは、今後のソフトウェアやハードウェアの変化・進化に伴い、ファイルの読み込みや再生ができなくなる恐れがあります。仮に読み込むことができなくなった場合でも、メタデータにコンテンツのフォーマットの名称が記述されていれば、その記述を基に再生可能なデータ形式への変換 (マイグレーション) を行うこと 	2-105、2-106、2-107、2-108、2-109 →記録形式名称 →記録形式バージョン	R-46、R-47、R-48、R-49

※1 NDL 大震災メタデータスキーマの対応項目

番号	項目名	値の内容	入力条件	値の形式	解説・入力例等	NDL メタ対応項目※1	連携メタ対応項目
		書ファイルなら PDF 等)			<p>ができます。</p> <p><入力の際の留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> 入力する際は、標準的な形式である IMT 形式 (IANA MIME Media Types 形式) で記述すると、データの処理が容易になります。アーカイブシステムにコンテンツを登録する際に、システム側でファイルの拡張子から自動的に IMT 形式の値を付与できる仕組みにしておくことが望ましいでしょう。 可能であれば、「コンテンツフォーマットの名称」と併せて、コンテンツフォーマットのバージョン情報もメタデータに記述しておく、マイグレーションをより円滑に行うことができるでしょう。 値の形式は、バージョンの数字 (例: 7.0 等) でも年 (例: 2003 等) でもどちらでも構いません。システム側でファイルのプロパティからバージョン情報を付与できる仕組みにしておくことが望ましいでしょう。 <p><入力対象となる資料種別></p> <ul style="list-style-type: none"> (コンテンツがデジタル資料の場合) 全ての資料種別 <p><入力例></p> <ul style="list-style-type: none"> PDF ファイルでの入力例 [記録形式名称] application/pdf [記録形式バージョン] 7.0 <p><参考情報></p> <ul style="list-style-type: none"> IANA MIME Media Types http://www.iana.org/assignments/media-types 		
14	説明、要	コンテン	任意	文字	<解説>	2-79	R-38

※1 NDL 大震災メタデータスキーマの対応項目

番号	項目名	値の内容	入力条件	値の形式	解説・入力例等	NDL メタ対応項目※1	連携メタ対応項目
	約注記	ツに関する注記等のあらゆる記述		列	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツに関する情報をメタデータとして入力する際、どの項目にも当てはまらないが入力したい内容が出てくる場合があります。当てはまる項目が無い場合、重要かつ出現頻度の高い内容であればアーカイブシステム側でメタデータ項目を新たに追加することが望ましいのですが、新規にメタデータ項目を追加するまでもない内容の場合は、注記等に入力することもできます。注記等に入力しておくことで、簡易検索で検索できるようにすることも可能になります。 <p><入力の際の留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> 記述する際は、記述すべき内容だけでなく、その内容が何を表すのかを示す導入語句を「導入語句：」の形式で値の冒頭につけておきます。こうすることで、メタデータを利用する第3者が、この導入語句を基に値を切り出し、別フィールドで管理することも可能となります。 「注記等」は、他のメタデータ項目に入力できないあらゆる内容を記述することができる汎用性の高い項目ですが、他の特定の項目に入力することが可能な内容であれば、できるだけ特定の項目に入力するようにしましょう。例えば「要約・抄録」を入力したい場合は、「注記等」ではなく別途「要約・抄録」の項目を立ててそちらに入力するようにしましょう。 <p><入力対象となる資料種別></p>	→注記等	

※1 NDL 大震災メタデータスキーマの対応項目

番号	項目名	値の内容	入力条件	値の形式	解説・入力例等	NDLメタ対応項目※1	連携メタ対応項目
					<ul style="list-style-type: none"> 全ての資料種別 <u><入力例></u> <ul style="list-style-type: none"> 例えば以下のような事例があります。 注記：索引あり コンテンツの収集者：○○ 		

※1 NDL 大震災メタデータスキーマの対応項目